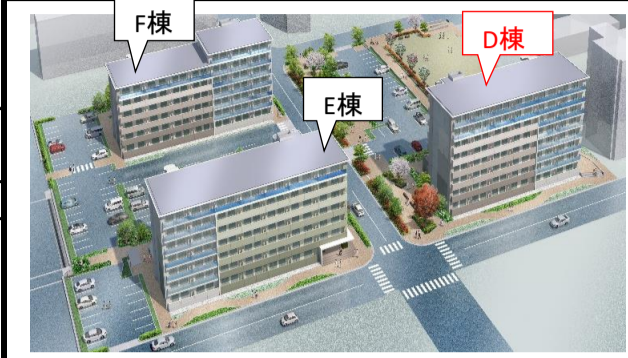


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	県営上和田住宅 D棟(仮称)	階数	地上8階
建設地	愛知県岡崎市上和田町字荒野1番2、5番2、69番1、70番の一部	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域	平均居住人員	120 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年8月 予定	評価の実施日	2022年7月1日
敷地面積	5,277 m ²	作成者	(株)市川三千男建築設計事務所 設計監理部 長田瑞基
建築面積	553 m ²	確認日	2022年7月1日
延床面積	3,005 m ²	確認者	(株)市川三千男建築設計事務所 設計監理部 長田瑞基



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

★ ★ ★ ★ ★ A: ★ ★ ★ ★ ★ B+: ★ ★ ★ ★ B: ★ ★ ★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★ ★ ★ ★ ★

30%: ★ ★ ★ ★ ★ 60%: ★ ★ ★ ★ ★ 80%: ★ ★ ★ ★ 100%: ★ ★ 100%超: ★

標準計算

①参照値	184 (kg-CO ₂ /年・m ²)	100%
②建築物の取組み	46	45%
③上記+②以外の	92	45%
④上記+	138	45%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 4.1

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.5

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>5.0</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>3.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>26.4 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.1</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
					評価点	評価点	重み係数	評価点		評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質											
Q1 室内環境											
1 音環境											
1.1 室内騒音レベル		0.1	3.0	0.15	3.0	3.0	1.00	-	3.2		
1.2 遮音		0.5	3.0	0.50	3.0	3.0	0.50	-	2.9		
1 開口部遮音性能		-	3.0	1.00	-	3.0	0.30	-			
2 界壁遮音性能		-	3.0	-	-	3.0	0.30	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	3.0	-	-	3.0	0.20	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	3.0	-	-	3.0	0.20	-			
1.3 吸音		-	3.0	-	-	3.0	-	-			
2 温熱環境											
2.1 室温制御		0.3	3.0	0.35	3.1	3.1	1.00	-	3.1		
1 室温		1.0	3.0	1.00	3.3	3.3	0.50	-			
2 外皮性能	日本住宅性能表示基準等級4	3.0	3.0	0.63	-	3.0	0.63	-			
3 ゾーン別制御性		3.0	3.0	-	-	-	-	-			
2.2 湿度制御		3.0	-	-	-	3.0	0.20	-			
2.3 空調方式		3.0	-	-	-	3.0	0.30	-			
3 光・視環境											
3.1 昼光利用		0.2	2.0	0.25	2.4	2.4	1.00	-	2.3		
1 昼光率		0.3	1.8	0.30	2.0	2.0	0.30	-			
2 方位別開口		3.0	1.0	0.60	-	1.0	0.50	-			
3 昼光利用設備		3.0	3.0	0.40	-	3.0	0.20	-			
3.2 グレア対策		0.3	2.0	0.30	3.0	3.0	0.30	-			
1 昼光制御		5.0	2.0	1.00	-	3.0	1.00	-			
3.3 照度		3.0	1.0	0.15	-	1.0	0.15	-			
3.4 照明制御		3.0	3.0	0.25	-	3.0	0.25	-			
4 空気質環境											
4.1 発生源対策		0.2	3.0	0.25	3.1	3.1	1.00	-	3.1		
1 化学汚染物質		0.6	3.0	0.60	3.0	3.0	0.63	-			
4.2 換気		0.4	3.0	0.40	3.3	3.3	0.38	-			
1 換気量		3.0	3.0	0.50	-	3.0	0.33	-			
2 自然換気性能	居室面積の1/8以上の開口の設置	3.0	3.0	-	-	4.0	0.33	-			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	3.0	0.50	-	3.0	0.33	-			
4.3 運用管理		-	-	-	-	-	-	-			
1 CO ₂ の監視		3.0	3.0	-	-	-	-	-			
2 喫煙の制御		3.0	3.0	-	-	-	-	-			
Q2 サービス性能											
1 機能性											
1.1 機能性・使いやすさ		0.4	2.5	0.40	2.8	2.8	1.00	-	2.8		
1 広さ・収納性		0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	0.60	-			
2 高度情報通信設備対応		3.0	3.0	-	-	3.0	-	-			
3 バリアフリー計画	独自	3.0	3.0	1.00	-	-	1.00	-			
1.2 心理性・快適性		0.3	1.0	0.30	2.5	2.5	0.40	-			
1 広さ感・景観 (天井高)	居室天井高さ 2.5m以上	3.0	3.0	-	-	4.0	0.50	-			
2 リフレッシュスペース		3.0	3.0	-	-	-	-	-			
3 内装計画		3.0	1.0	1.00	-	1.0	0.50	-			
1.3 維持管理		0.3	3.5	0.30	-	-	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	壁・天井仕上げ材の統一による仕上材の種類の削減	3.0	4.0	0.50	-	-	-	-			
2 維持管理用機能の確保		-	3.0	0.50	-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性											
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.3	2.9	0.31	-	-	-	-	2.9		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48	-	-	-	-			
2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80	-	-	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		0.3	3.3	0.33	-	-	-	-			
1 躯体材料の耐用年数	RC造とし、仕上げ塗材にフッ素系を採用、防水20年保証	-	5.0	0.25	-	-	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-	3.0	0.25	-	-	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	2.0	0.10	-	-	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	-	-	-	-	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	3.0	0.17	-	-	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	3.0	0.25	-	-	-	-			
2.4 信頼性		0.1	2.0	0.19	-	-	-	-			
1 空調・換気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-			
2 給排水・衛生設備		3.0	1.0	0.20	-	-	-	-			
3 電気設備		3.0	1.0	0.20	-	-	-	-			
4 機械・配管支持方法		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-			
5 通信・情報設備		3.0	2.0	0.20	-	-	-	-			

3 対応性・更新性				0.2	3.1	0.29	3.0	3.0	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり				-	-	-	3.0	3.0	0.50	
1	階高のゆとり			-	3.0	-		3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ			3.0	3.0	-		3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	-		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				1.0	3.1	1.00				
1	空調配管の更新性	②			3.0	0.17				
2	給排水管の更新性		排水立管の集約、点検口の設置	3.0	4.0	0.17				
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11				
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11				
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22				
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30				4.1
1 生物環境の保全と創出		独自③			3.0	0.30				3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	色調を統一し、調和のとれた街並み		5.0	0.40				5.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	4.0	0.30				4.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④	広場を確保し、地域のにぎわいに貢献		5.0	0.50				
3.2	敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性										3.6
LR1 エネルギー						0.40				3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.8	3.0	4.0	0.33				4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.17				3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.86	3.0	4.8	0.33				4.8
4 効率的運用				0.1	3.0	0.17				3.0
集合住宅以外の評価										
4.1	モニタリング			3.0	3.0	-				
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	-				
集合住宅の評価				1.0	3.0	1.00				
4.1	モニタリング				3.0	0.50				
4.2	運用管理体制				3.0	0.50				
LR2 資源・マテリアル						0.30				3.2
1 水資源保護				0.1	3.6	0.15				3.6
1.1 節水				3.0	3.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	4.0	0.60				
1	雨水利用システム導入の有無		有	3.0	4.0	1.00				
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0						
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.3	0.63				3.3
2.1 材料使用量の削減					2.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	高炉セメント(基礎部分)		5.0	0.20				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	再生砕石(あいくる材)	3.0	3.0	0.20				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	3.0	0.05				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自		3.0	3.0	0.24				
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22				3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68				
1	消火剤									
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	1.00				
3	冷媒			3.0						
LR3 敷地外環境						0.30				3.5
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率45%		5.0	0.33				5.0
2 地域環境への配慮				0.3	2.6	0.33				2.6
2.1 大気汚染防止					1.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.5	0.25				
1	雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25				
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25				
3	交通負荷抑制	独自	敷地への駐車場乗入れ位置を同じ道路に面して設けない計画		5.0	0.25				
4	廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25				
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33				3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40				
1	騒音	独自			3.0	1.00				
2	振動	独自								
3	悪臭									
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40				
1	風害の抑制				3.0	0.70				
2	砂塵の抑制				3.0	-				
3	日照障害の抑制				3.0	0.30				
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20				
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70				
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			5.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	5.0	0.10
② 資源の有効活用			3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.19
③ 敷地内の緑化			3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09
			外構緑化:26.4%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 県営上和田住宅 D棟(仮称)

計画上の配慮事項	
総合	既存住棟(4階建)の建替え事業である本計画は、中層化(8階建)することで敷地内平面駐車場、児童遊園を広く確保し、地域のコミュニティを促進します。
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> ・室内化学物質調査では規定値をクリアされている。 ・F☆☆☆☆以上を全面的に使用し、室内化学物質調査をしている。
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> ・建築基準法上の耐震性をクリアしている。 ・住宅性能表示基準劣化対策等級3をクリアしている
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地内緑地を条例基準以上確保している。 ・地域を考慮した外観デザインを採用している。
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅性能表示基準断熱等性能等級4をクリアしている。 ・南側バルコニーとしている。
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・大便器を節水型ロータンクとしている。 ・基礎部分に高炉セメントを使用している。 ・有害物質を含まない材料を使用している。
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> ・分別可能な特定ゴミ置き場を設置している。 ・適切な量の自転車置場、駐車スペースを設けている。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。